

## 日経平均株価

3万5963円27銭

▲497円10銭(前日比)

## TOPIX

2510.03

▲17.94(前日比)

2024  
1/22  
月曜日

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



# 半導体関連上振れあるか!?

## 3月期企業の3Q決算始まる



### 3Qは半導体関連の好決算に期待高まる

3月期決算は、半導体関連の好決算に期待が高まる。10月23日発表の第2四半期決算は、連結営業利益で前年同期比20%増の1157億8200万円を計上、同期は2200億円(前期は2000億円)を上回った。EVの価格低下や車載向けの停滞が懸念されていたが、これらの不安が解消されれば、前期予想を上回る可能性がある。EVの需要は十分ある。日信(26)、越化学(4)、工業(63)、日立建機(6)、日立(6)、日東電(5)、東電(6)、日産(6)、トヨタ(6)など、半導体関連の好決算に期待が高まる。

トヨタ自動車(7203)、14日にソニーグループ(6758)などが控える。任天堂は新型ゲーム機の年内発表が噂されており、詳細が表面化すれば話題を集めよう。

### AI連携など動き活発化

1月24日のディスコ(6146)やニテック(6594)を皮切りに3月期企業の第3四半期決算発表がスタートする。半導体関連業界に関しては1日に発生した能登半島地震の影響が懸念されていたが、現地の工場の多くは再稼働となっており、影響は軽微だった。そのような中で米国ではエヌビディアが大きく買われ、マイクロソフトが自動車メーカーとAIで連携するなど動きが活発化しており、日本企業も足元の状況次第では通期業績の上振れ期待が高まりそうだ。

益で734億、円8前

### 日経平均の日足チャート



1月第1週の動意銘柄

海運株買い進まれる

APモラー 紅海運行停止

大発会4日、日本郵船(9101)など海運株が軒並み買い進まれた。デンマーク海運大手APモラー・マースク(MAERSK)がイエメンの親イラ

半導体関連SOX大幅安

レーザーテック(6920)が大幅に続落したほか、東京エレクトロン(8035)、アドバンテスト(6857)、ディスコ(6146)など

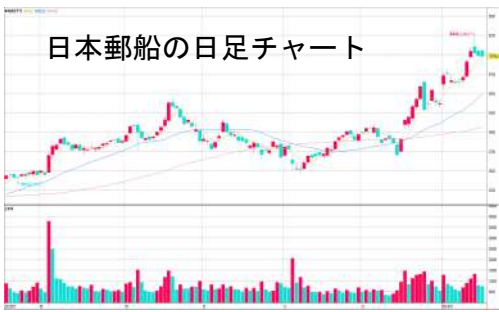
半導体関連の下げが目立つ。米SOX指数が2日は3.7%安、3日も2.0%安と年明けから連日の大幅安になっており、米ハイテク株安の流れが波及した。過度な利下げへの期待の反動で、米10年債利回りが一時4.0%台まで上昇したこと、米ハイテク株には調整色が漂っている。

震災復興関連に買い

北陸電工(1930)が急伸。能登半島地震を受け電力復旧が急務となるなか、北陸電力傘下の電気工事会社社である同社は復興特需に絡んで物色されており、**福田組(1899)**も大幅高、**地盤ネットホールディングス(6072)**や**キタック(4707)**はストップ高。

正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は続伸。日経平均は前の週から386円上昇しています。前の週の勢いを引き継ぎ週明けに3000円を上回る上昇で、一時3万6000円台に乗せた後は、急ピッチの上昇への警戒から、3日続の決算が予れを示唆す週末は半導00円近い切り返してながら円安革が買い安の資金シフト高値警戒感が展開になりそう  
**調整含みも深押しはない**  
状態維持が予想さ手ASMLの決算が優先して週後半から始まる3Q決算に備える考えです。**花咲翁**  
掛かりになる可能性があり、深押しはなく高値もみ合いと見ています。ただ、利益確定を優先して週後半から始まる3Q決算に備える考えです。**花咲翁**



への攻撃が相次ぐ中、コンテナ船の紅海航行を当面停止すると発表したことを受けて運賃上昇への思惑

輪五スポーツeプレイドウェル

週末5日、ウェルプレイド・ライゼスト(9565)がストップ高。国際オリンピック委員会が「オリンピック・eスポーツ・ゲームズ」の26年大会開催を日本に打診していることが伝わったことと買い手掛かりになった。急速に発展するeスポーツ分野で、今後の日本の立ち位置を左右する分岐点となる可能性があり、日本側は開催可否を検討するとしており、eスポーツイベントを運営する同社にはビジネスチャンス拡大を期待した買いを集めた。

二トリ円安の影響懸念

二トリホールディングス(9843)が大幅に4日続落。米雇用指標が予想よ

安田倉庫は物流24年関連

り強い内容だったことを受け米長期金利の上昇に伴い、ドル円が足元で144円80銭台まで円安が進行、輸入コスト負担増による収益への影響を懸念した売りに押された。

安田倉庫(9324)が急伸。今春から自動車運転業務者への残業規制が強化される「物流2024年」問題に絡んで

り強い内容だったことを受け米長期金利の上昇に伴い、ドル円が足元で144円80銭台まで円安が進行、輸入コスト負担増による収益への影響を懸念した売りに押された。

あみやき亭営業益28倍

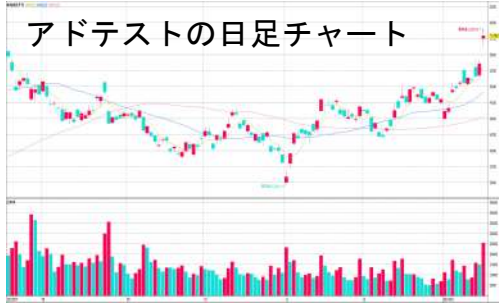
あみやき亭(2753)が3連騰。4月に発表した24年2月期の第3四半期累

計(4~12月)決算で連結営業利益が前年同期比28倍の13億7400万円と大幅な増益となったことが引き続き好感された。新業態「和牛焼肉 百名山」を名古屋駅太閤口近くにオープンし好評という。



# 半導体上昇目立つ

## エヌビディア最高値でSOX大幅高



連休明け9日、アドバンテスト(6857)、東京エレクトロン(8035)、デイスコ(6146)、野村マイクロ・サイエンス(6254)、エンプラス(6961)など半導体関連銘柄の上昇が目立った。米国市場でSOX指数が

10日、さくらさくプラス(7097)がストップ高。発行済株式の5・5%にあたる25万株、2億円を上限に自社株買いを実施すると発表したことで、株価

さくらさく 5.5% 自社株買

稲畑産業(8098)が急反落。83万6700株の売

### 稲畑産業は住化が売

出と125万790

### フーズ8% 自社株買

ファーマフーズ(2929)が急伸。自

己株式取得枠の設定を発表、上限1100万株(発行済株式総数に対する割合3・8%)または10億円取得期間は1月9日〜1月24日。

浮揚効果が期待された。取得期間は10日から4月30日まで。株主還元の実や資本効率の向上と経営環境の変化に対応した機動的資本政策を行うことが目的。

0株のオーバーアロツトメントによる売出を実施するとから需給圧迫が懸念された。売出株は最大で発行済み株式数の約17%の規模で、筆頭株主の住友化学(4005)とみずほ信託銀行が売出人。

松井証券

今こそ始めるデイトレード

# 松井証券の一日信用取引

手数料 0円 金利・貸株料 0~1.8%

取引コスト

プレミアム空売り

独自サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら

marketpress.jpのバナーをクリック

# フュートレックがS高

## 音のAI検査開発を材料視

10日、フュー

レック(2468)

がストップ高。同社

は9日の取引終了後、

「音のAI検査SD

K for Linu

x」を開発し、菱洋

エレクトロ(806

8)へ提供したこと

を発表した。独自の

音響処理とAI技術

によって、機械製品

や生産設備の稼働音

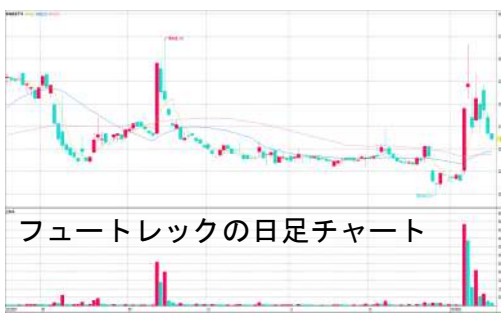
や振動を分析し、正

常状態との違いを数

値によって見える化

する技術で、採用拡

大と収益貢献が期待



フュートレックの日足チャート

### ネクステジ直近6割減益

ネクステジ(3

186)が急反落。

23年11月期の連

結決算は、営業利益

160億8400万

円(前の期比17・

ナック)

が急落。

(6183)

が急落。

24年2月期の第3

四半期累計決算を登

表、連結営業利益で

89億2100万円

(前年同期比24・

9%減)となったこ

とが嫌気された。

「プログラ

ムがストップ高

プログラ

ム(9

560)

がストップ

高。

124年8月

期第1四半期の連

結決算は、営業利益

466億8600万

3%減)と計画を下  
振れて着地した。保  
険契約捏造が判明し  
たことで、期末にか  
けて来店者数が落ち  
込み、直近3カ月の  
9月11月期は6割  
を上回る大幅減益に  
なっており、24年  
11月期は200・  
3%増)と急回復を  
見込んだが、計画達  
成に懐疑的な見方が  
なされた。

## 技研製作は営業増益

11日、技  
研製作所(6

289)が急

伸。24年8

月期の第1四

半期(9月1

1月)決算を

発表、連結営

週末12日、ファ  
ーストリテイリング  
(9983)が大幅続  
伸、年初来高値を更  
新した。24年8月

## ファーストリ25%営業増益

週末12日、ファ

ーストリテイリング

(9983)が大幅続

伸、年初来高値を更

新した。24年8月

期第1四半期の連

結決算は、営業利益

高。124年8月期  
第1四半期の単体決  
算は、売上高10億  
2500万円(前年  
同期比52・0%増)  
営業利益3億210  
0万円(同2・1倍)  
と大幅増収で利益が  
急拡大した。英語コ  
ーピングサービス

### プログラがストップ高

プログラ

ム(9

560)

がストップ

高。

124年8月

期第1四半期の連

結決算は、営業利益

466億8600万

円(前年同期比25・

3%増)と大幅増益

### 週足十字足

先週の東京株式市場は続伸し、一時3万6000円台に乗せる場面がありました。1月第2週に海外投資家が現物株を1兆円近く買い越して弾みがつき、位置取りを大きく変えてきました。アジアでも日本株ブームとなっているようで、上海や香港株を売る一方で日本株のETFに資金が流入しており、今年に入って日本株一人勝ちの様相です。ただ、個人投資家は同規模売り越しており、巷で囁かれた新NISAによる日本株への資金流入は限られているようです。

海外投資家が先物よりも現物株を大量購入したことで、息の長い上昇相場が期待できますが、足元は過熱感が高まっており、日経平均の週足ローソク足が十字足形成となったことには注意が必要です。今週末から決算発表が本格化しますが、更に高値を目指すには企業利益の伸びを確認せねばなりません。

日々勇太郎



### ディップ下方修正

79)が急反落。  
11日取引終了  
後、24年2月期  
の業績予想の修  
正を発表、連結売  
上高で563億  
円から532億円(前  
期比7・8%増)へ、  
営業利益で145億  
円から119億円(同  
3・1%増)へ下方修  
正した。コールセンタ

で着地したことが好  
感された。北米、欧  
州を中心に海外ユニ  
クロ事業が大きく伸  
び、国内事業も粗利  
率改善や販管費の抑  
制などで大幅な増益  
になった。

1・事務領域の求人  
広告市場の急速な悪  
化により人材会社向  
けが減少しており、成  
長期待が後退し、割高  
感が意識された。

三光合成ストップ高

12日、三光合成(7888)がストップ

1月第3週の動意銘柄

12日、三光合成(7888)がストップ高。24年5月期の第2四半期累計決算は、連結営業利益で前年同期比24・

2%増の20億4100万円となり、年間配当を18円から20円(前期16円)

へ引き上げた。金型は減収ながら、車内用内外装部品が伸びている。

最高業績を達成、通期予想を従営業利益で95億円から104億円(前期比0・8%増)へ上方修正した。通期予想については1ドル135円を想定しており、現状の円安推移なら再度の上ブレの可能性もあるうえ、第2四半期決算発表での席上、布山尚伸社長は「26年3月期に売上高2200億円を指す中長期経営計画を今期末の決算を確認した上で見直す」意向も示唆している。

40)と「Data Spider Cloud」の共同事業を解消、自社サービス「mitocox」としてリリースするための費用が発生している。

ケイブがストップ高

新規ゲーム好調で黒字転換

週明け15日、ケイブ(3760)が急伸、ストップ高まで買われた。24年5月期の第2四半期累計決算を発表、連結

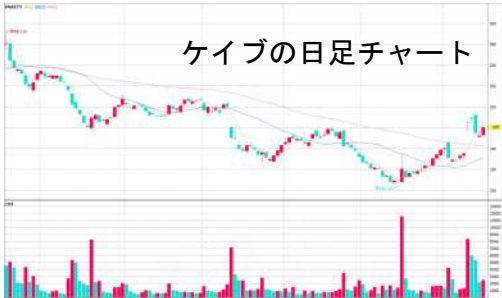
15億1100万円の赤字)と黒字転換した。「東方Project」のIP許諾を受けた新規ゲーム「東方幻想エクリプス」がリリース後にダウンロード数が想定を大幅に上回った。

23年11月期の連結決算は、営業利益26億1600万円(前の期比15・4%減)と計画を下回り2ケタ超の減益で着地したことが嫌気された。コールセンター向け人材派遣の反動減が大きく、広域行政BPOが未達になったことも収益を押し下げた。

期待 立花エレテック(8159)が急伸、12%超の値上がりで最高値を更新した。FA機器分野では半導体製造装置関連が伸びていることから半導体関連銘柄として評価を高めている。23年3月期は第2四半期累計決算として過去

9・0%減)へ下方修正した。セゾン情報システムズ(96

古野電気(6814)が続急伸。24年2月期の業績予想について、連結営業利益で50億円から60億円(同3・9倍)へ上方修正した。収益改善の取り組み効果や、為替レートが米ドル、ユーロとも想定よりも円安水準で推移していることなどが収益上振れの要因。



さくらネット新値追

DCC点検AIで自動化実証

16日、さくらインターネット(3778)が6連騰で新値追い。エンタープライズAIソフトウエアを提供するブレインズテクノロジ(東京都港区)とデータセンターにおけるラックの施錠確認や汚損破損

などの日常点検をAIで自動化するための実証実験16日から開始すると発表した。今回の実証実験は、同社が運営する「石狩データセンター」内の日常点検業務をブレインズテクノロジの予兆検知ソリユー

ション「Impuls」でAI解析を行い、ラックの施錠状況や現場環境の変化を正確に検知されるかを検証するためのもの。

テラスカイ(3915)が大幅続落。24年2月期の業績予想について、連結営業利益で11億100万円から4億600万円(前期比

モビルス支援AI提供 17日、モビルス(4370)がストップ高。NTTネクシアが実施した生成系AI(ChatGPT)を活用した電話の案内代行サービス「ハローダイヤル」における応対品質向上のための実

証実験に、モビルスが開発したオペレーター支援AI「MooA」を提供したことを発表した。この実証実験では応対品質が得られ、NTTネクシアでは今後の商用利用に向けた検討を開始している。



# 高野恭壽の株式情報

## これでどや!!



株式市場新聞の名物コーナーが復活!

連などが更に買われていく見通し。ドル

の強さを下値抵抗が強くこの水準で改めると思っています。

その影響からAI関連の回復は時間問題でしょう。野村HD(8604)の回復は時間問題でしょう。

# 半導体関連はSUMCO

個別ではコメ兵HD(2780)をお勧めしていました。個人ではコメ兵HD(2780)をお勧めしていました。

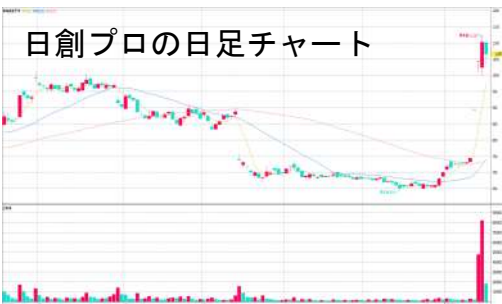
高野恭壽(たかのやすひさ)氏 株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家へ。講演会のほかラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに出演。「株式投資30カ条」など著書も。公式ホームページ <https://marketpress.jp/kabu-takano/>

日経平均はザラ場で3万6000円を付けた後、調整に入っていたのですが、依然として外国人買いが続いており、本来ならば月末に向けて調整色が強まるのですが、下値の強さから上値を窺う可能性が出てきたと見ています。日本株に比べて米国株式の上値の重さが気になっていました。18日にダウは200ドル超の反発に転じました。AI関連などがけん引役です。失業保険申請件数が昨年9月以来の低水準になったこととで景気の底堅さが認識され、利下げが早期に実現する可能性が後退し国債金利が上昇しました。それにもかかわらずハイテク系が買われて戻したことで日経平均もその影響からAI関連

ども引き続き物色されそうです。高値を更新したトヨタに続いてホンダははじめ各社が軒並み買われると見えています。日産自動車(7201)を昨年の11月の低迷に対するリベンジとして改めてお勧めしています。PER5倍台、PBR0.3倍台という超安値に放置されており、修正高に向かうでしょう。600円台の回復は早く、700円台に向かうことが予想されます。半導体系ではSUMCO(3436)が注目されています。個人ではコメ兵HD(2780)をお勧めしていました。

# 日産自をリベンジ

相場も148円台で堅調な動きになっており、円安メリットの自動車など



17日、日創プロニテイ(3440)が2日連続ストップ高。15日に24年8月期の業績予想を連結売上高で155億円から161億円(前期比28.3%増)へ、営業利益で5億円から11億8000万円(同3.78倍)へ上方修正したことが引き続き好感された。金属加工事業における一部の大型案件に当初想定よりも納期が前倒しの形で進捗して

# 日創プロは連続S高

## 24年8月期予想を上方修正

北川精機は希薄化懸念 北川精機(6327)が大幅続落。第

# 松尾電は中計で復配

尾電機(6916)が連続ストップ高。16日に中期経営計画を発表したことが引き続き好感された。10年後に売上高100億円達成を目指す、25年3月期から27年3月期までの中計はその基盤固めと位置づけられており、中計期間中に復配を目指す。

新日本科学(2395)が一時ストップ安。米国子会社がFDAから急性期偏頭痛治療薬「STS

三者割当による新株予約権発行を発表したことから希薄化が懸念された。潜在株式数は100万株で発行済み株式数の13.07%にあたる。併せて24年6月期業績予想を上方修正したが反応は限定的

101」の新薬承認申請に対する審査完了報告通知(CRL)を受けたと発表した。CRLは承認申請審査完了時点で、承認に至らない場合に発行されるもので失望売りに値を崩した。アマタHD実証完了 アミタホールディングス(2195)が連続ストップ高。16日にジャパン・サーキュラー・エコノミー・パートナーシップで2つの実証が完了したと発表されたことが引き続き好感された。資源回収ステーションがプラステック資源循環モデルの構築に寄与するとされている。

# 息の長い上昇相場へ

## 別次元の発想や感覚必要

米国の経済成長率は昨年の2・5%から1・6%へ減速すると予測が示された。世界経済全体でも3年連続鈍化である。株式相場と実体経済の乖離は大幅調整を招く原因になる、FRB

光世証券

取締役 西川 雅博 氏

年明けから日経平均は年末比で一時2800円幅近い急騰になった。12月は米国株に較べ上値の重さが目立っていたが、ここに来て上昇ピッチが加速し一気にアウトパフォームに転じている。短期筋だけではなく、グローバル資金のアセットアロケーションによる日本株見直し買いが背景だろう。テクニカル面からスピード調整があってもおかしくないが、長期スパンでは今回の急上昇は日本株が新しい上昇ステージに入ったシグナルではないかと見ている。

米国金融市場では、昨年秋以降早期利下げが現実味を帯びたとしてリスクオンの様相を強めた。インフレ緩和傾向が続く中で景気指標は底堅く、ソフトランディングへの期待が高まっている。ただ、これは今回の特有の事象ではない。過去の金融政策転換局面でも最後の約1年間程度は株式相場が上昇するケースが多く見られる。金融引き締めによる景気減速はタイムラグを経るため、こうした局面では景気後退懸念よりも金融緩和期待が先行し易いようだ。



## 相場展望

世界銀行の24年

にとつては、景気底割れ懸念に配慮しつつ市場の利下げ期待が先行し過ぎないようにけん制も求められる難しい年となりそうだ。足元では米12月小売売上高は予想以上の伸びとなり、再びタカ派の見方に揺り戻しの動きが見られる。ただ、リーマンショックの経験則が活かされ、年間を通じある程度のコントロールの維持は可能と見ている。日本は出口戦略という全く逆の課題に直面するが、デフレからの本格脱却が前提であり長い目で見れば株式市場にはポジティブと捉えられよう。一筋縄ではいかない米国や欧州と較べ、地政学的観点や割安感から日本株が相対的に優位になるとの見方がある。それが年明けの急騰相場の背景であり、今まで以上に息の長い上昇相場につながる可能性がある。現在のところ植田日銀総裁は市場との対話に成功しているとの評価で、今後も引き締めスタンスをことさらに不安視することはないだろう。

今年の新NISAへの期待だけでなく、脱デフレの本格化が日本株にもたらす影響は極めて大きいと考える。第3四半期決算発表で短期的に株価がブレやすい局面だが、投資戦略はデフレ時代の失われた30年間とは全く別次元の発想や感覚が必要だろう。2・3月決算の高配当銘柄の押し目狙い。個別でJFE(5411)、ミネベアミツミ(6479)、三菱UFJ(8306)など。

## タツモ、芝浦値上り上位

### 半導体製造装置で出遅れ感

週末19日、半導体製造装置関連では

タツモ(6266)

や芝浦メカトロニクス(6590)、アドバンテスト(6857)が値上がり率

上位に顔を並べた。

台湾積体回路製造(TSMC)の業績

見通しが好感され、

ニューヨーク市場でもインテルなど半導

体株が買われたこと

が追い風となった。

タツモや芝浦は先駆

した半導体製造装置

の主力に比べて出遅

れ感もあるようだ。

TOYO納入不正伝わる

TOYOTIR

E(5105)が急落。

ホンダ(7267)

の人気車種「NーB

OX」の部品をめぐ

り、管理基準を大幅

に外れた数値のまま

納入していると伝わ

った。すでに出荷さ

れた車にも使用され

ている可能性がある

という。

VALUENEX連続S高

VALUENEX

(4422)が2日連

続ストップ高。17日、

異種データ融合マッ

プ解析・大規模デー

タ分類マップ解析を

可能にする「VAL

UENEX Radar

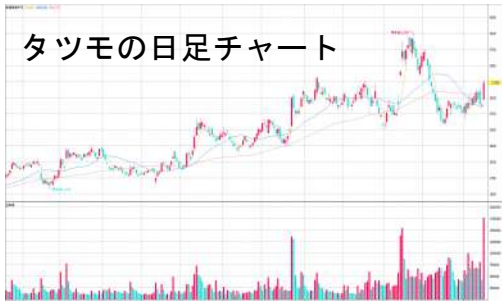
r Fusion」β

版の今後のリリース

に備え、テスターを

募集すると発表した

ことが引き続き材料



タツモの日足チャート

# チャート から読む 騰落銘柄

## ポールHD(3657)



1月末配当権利取りの動きを交えて、75日線突破し上昇基調で、目先的には昨年11月28日高値突破で550円抜けを目指す。QRコード決済向け拡大で25年1月期の増益転換にも期待高まる。

## スクリーンHD(7735)



大勢上昇トレンドのなか、半導体関連株物色の流れに乗り青空相場を一段高へ。今期は収益再上振れ期待が強い。信用倍率1.57倍、貸借倍率0.63倍で買戻しが株価を押し上げ、噴き値局面に近い。

## わらべや日洋(2918)



昨年12月13日高値3715円を抜けきれずに一気に3000円割れから昨年10月安値水準の2800円トビ台まで急落。原材料高による業績悪化懸念払拭できず、昨年8月安値水準の2600円割れも。

## 野村マイクロ(6254)



1月11日に付けた上場来高値1万6660円で当面の天井感。半導体関連株物色の流れに乗れず下落が続く。押し目買いに積み上がった信用買い残が重荷で、75日線近辺の1万円トビ台までの調整も。





7円44銭を目指す場面があるかもしれない。その過程では急落もあるんだろうけど今年はこの数年間で違う動きになりそう。

ここまできると1989年に付けた3万895

国では不動産バブル崩壊が深刻だし、米国は昨年からの民主党と共和党の不協和音で未だに予算は暫定なもの。日本ではハイテク中心に日本企業は結構強いという

# 星野三太郎の株街往来

～日本株は思ったより強い～

2024年になって地震や航空機事故などネガティブな話題が相次いだ。日経平均ではアッサリとバブル崩壊後の高値を更新した。年初からのネット上のニュースを見ていると日本の「管理能力の欠如」とか、「再び巨大地震で安心して投資できない日本」などネガティブな話題が多かった。ただ、中

2024



## New product

**カルビー** 今年も「梅まつり」企画  
 かつぱえびせんとポテトチップス



「かつぱえびせん紀州の完熟梅味」と「ポテトチップスギザギザ梅かつお味」の新商品「かつぱえびせん紀州の完熟梅味」（5月中旬終売予定）と「ポテトチップスギザギザ梅かつお味」（4月下旬終売予定）を1月22日から期間限定発売する。  
 「かつぱえびせん紀州の完熟梅味」は紀州の完熟梅のほどよい酸味と「かつぱえびせん」の塩味の絶妙なバランスがやめられないおいしさに仕上げている。「ポテトチップスギザギザ梅かつお味」は、最初に紀州の梅の酸味が感じられ、中盤からかつおの旨味と風味が広がる豊かな和の味わいに仕上げている。

**キリン** 親しみやすくおいしさ進化  
 スプリングバレーをリニューアル



キリンホールディングス（2503）グループのキリンビールは、クラフトビールブランドの「SPRING VALLEY（スプリングバレー）」を3月12日にリニューアルする。フラッグシップ商品「SPRING VALLEY 豊潤<496>」の中味をリニューアルし、おいしさをさらに進化させるとともに、定番3品「SPRING VALLEY 豊潤<496>」・「SPRING VALLEY シルクエール<白>」・「SPRING VALLEY JAPAN ALE<香>」のパッケージを刷新。パッケージについては「おいしさ」「品質感」のイメージは維持しながら、クラフトビールを飲んだことがない方にも「親しみやすさ」を感じてもらえるデザインにしている。

潮流

# 際立つ日本株の上昇

## 中国の投資家から資金殺到



世界の株式市場で日本株の上昇が際立っている。日経平均は1月4日の大発会の安値3万2693円から1月17日には一時3万6239円まで僅か8日間で3546円(+10.8%)も上昇した。

上昇の背景には海外の機関投資家が中国株や米国株の持ち高を圧縮し、割安感が強く上昇が見込める日本株に資金を移していることがある。年初からの主要指数の動きを見ると日経平均の上昇は目を見張るものがあるが、米ダウ平均、ナスダック総合株価指数、中国の上海総合指数、香港のハンセン指数はいずれも下落している。日本株への強気見通しが一段と増えている。

2023年に中国の株式市場に流れ込んだ海外マネーの約9割がすでに流出したという。不動産不況や米中問題を背景に上海総合指数は年初からの下げが大きく、1月18日に年初来安値を更新し、2020年5月以来約3年半ぶりの安値となった。年初からの下落率は7.2%にもなる。

日本株に連動するETF「チャイナAMC野村日経225」に中国の投資家の資金が殺到しているという。日本株に強気なのは、東京証券取引所のPBR(株価純資産倍率)の改善要請が今後は実行段階に移ることや日本の賃上げが

さらに進み、長年続いたデフレからインフレへ進む期待感がある。

1日の能登半島地震をきっかけに、ドル円レートは1月2日の1ドル=140円台から1月17日には148円台まで円安が進んだ。将来の為替

レートを予測する通貨オプション市場の予想変動率も安定傾向で、2023年12月7日に日銀の植田和男総裁が「来年にかけて一段とチャレンジングになる」と述べて円高になる前の水準に戻った。

つまり、植田氏の発言で相場が荒れる前に活発だった円キャリー取引(円を元手にしたドルなど高金利通貨での運用)の環境が回復したことになる。外国人投機筋(ヘッジファンドやCTA)による「円売り・株価指数先物買い」のプログラム売買が拡大したことで日経平均の上昇スピードが速まった。

1月9日~12日の先物の売買動向(日経平均先物、TOPIX先物、ミニ日経平均先物、ミニTOPIX先物の合計)によると、外国人投資家は4881億円買い越した。現物株との合算では1兆4439億円買い越した。

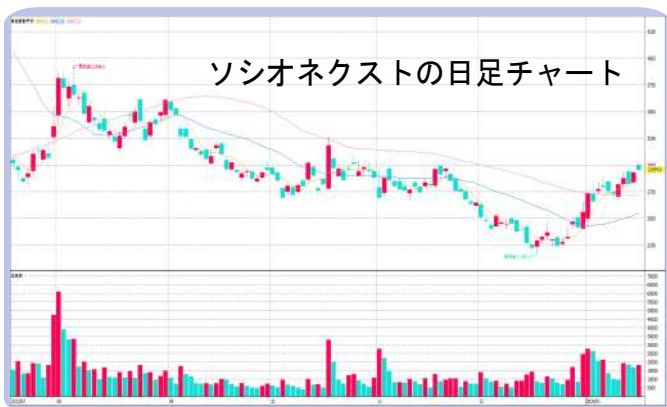
潮流銘柄はソシオネクスト(6526)、ITbookホールディングス(1447)、データセクション(3905)。

にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2022年1月の夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。<http://marketbank.jp>



岡山 憲史氏(株式会社マーケットバンク代表取締役)のプロフィール  
1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年

### 円キャリーの環境回復







敬腕先物ディーラー

# ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール  
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

約386円高と6週連続で週足陽線となった。年初より急騰し1月SQ日には典型的な「幻のSQ値」となったが、その経験則を打ち消す上昇となった。背景は海外投資家の大

幅な買いにつきる。日本取引所グループが18日発表した投資部門別売買動向によると、海外勢は1月第2週目に現物株を9557億円買い越した。先物と合わせた買い越し額は1兆4439億円と2023

年4月以来の大きさである。その時には12週連続で日本株を買い越し日経平均は27%上昇した。今年に入り海外勢が日本株を買いだしているのは日銀の超金融緩和政策の継続、東証のガバナンス改革、新NIS

Aのスタートなどが理由に挙げられる。しかし、海外勢がここまで買い越しているのは景気が失速する中国からの資金シフトが大きい。グローバルに運用するファンドのポートフォリオの組み換えで中国株のウェイトを減らし、低かった日本株の保有比率を上げているようだ。

また、米国S&P500が史上高値を更新するなど、海外マーケットが好調なものも株価上昇を後押ししている。今回の上昇は半導体関連の株価に米国半導体大手NVIDIAの株価は年初より約15%上昇、この株に連動する形で日経平均も上昇している。34年ぶりの高値である3

万6000円処はいわゆる「真空地帯」の域である。上昇傾向の時は売りが手控えられるので更に値が飛びやすいため先週も高値ゆえに売りと買いが交錯し一日で乱高下していたが、今後も乱高下を繰り返して高値更新を続けると思われる。

今週は日銀の金融政策決定会合が22日〜23日に行われる。今回も政策現状維持の見通しだが、イベント通過で終了後上昇に弾みがつくことも十分ありある。海外勢が売りに転じるまでは売りは控えた方がよいと思われる。今週のレンジは3万5800円〜3万6800円を想定する。  
(ハチロク)

# 日銀会合後は 上昇に弾みも

## 3万6000円処は「真空地帯」



日銀会合が22日〜23日に行われる

日経225先物日足チャート





# 記者の視点 相場見通し

## ASML決算に注目

### 日銀会合は無風通過？

1月第3週の東京市場は日経平均では17日に一時、3万6

今週は国内では22日からの日銀金融政策決定会合が最大のイベントだ。1月1日に発生した能登半島地震による経済への影響は不透明で、昨年末から警戒されているマイナス金利の解除については今回は見送られる可能性が高い。23日の植田総裁の会見が注目されるが今回は無風通過の可能性が高い。

一方、欧米では半導体製造装置大手のASMLホールディングスやIBM、AT&T、テスラなどが24日に決算発表を控える。特にオランダのASMLの決算次第ではTSMC同様に日本企業のハイテク買いに繋がる可能性がある。

239円22銭まで買われた後に急速に値を消し、高値波動となっていたが、週末には台湾積体回路製造(TSMC)が18日に示した業績見通しが好感され、ハイテク主導で買戻しとなり再び3万6000円台に戻す場面があった。

今年に入ってからバブル崩壊後の高値を大きく更新する動きは新NISAに絡む個人投資家の買いが指摘されいたが、海外投資家は1月第2週に日本株を1兆2000億円超と昨年10月第2週以来の規模で買い越しており、日本株買いを牽引しているのはやはり海外投資家。ただ、4日終値から17日のザラ場高値まで3000円近くも上昇したことは明らかにスピリットに反り、週明けは利益確定売りによる日柄整理は必要と見る。

上海市場に上場する日本株ETFが一時売買停止になった。投資資金殺到で人氣が過熱していることへの措置だったが、売買再開後も上昇が続く値幅制限いっぱいの上昇が続く場面があった。日本経済はデフレによる不況で株価に下押し圧力がかかっていると思われるが、前年の日経平均が20%超上昇したことで認識が変わったらしい。本土投資家の大半は海外口座がなく、資本規制にも縛られている。中国経済も本土株価が回復しなければ、避難先として日本株へ資金シフトが続くのだろう。



### 編集後記

上海市場に上場する日本株ETFが一時売買停止になった。投資資金殺到で人氣が過熱していることへの措置だったが、売買再開後も上昇が続く値幅制限いっぱいの上昇が続く場面があった。日本経済はデフレによる不況で株価に下押し圧力がかかっていると思われるが、前年の日経平均が20%超上昇したことで認識が変わったらしい。本土投資家の大半は海外口座がなく、資本規制にも縛られている。中国経済も本土株価が回復しなければ、避難先として日本株へ資金シフトが続くのだろう。

### 今週のスケジュール

- 22日 日銀金融政策決定会合(～23日)  
中国ローンプライムレート
- 23日 植田日銀総裁会見  
日銀「経済・物価情勢の展望」(展望レポート)
- 24日 12月貿易統計  
1月auじぶん銀行製造業PMI  
1月HCOBユーロ圏製造業PMI  
米1月S&Pグローバル米米国製造業PMI
- 25日 12月全国百貨店売上高  
ECB定例理事会(ラガルド総裁会見)  
独1月Ifo景況感指数  
米10-12月期GDP
- 26日 1月東京都区部消費者物価  
12月企業向けサービス価格指数  
米12月個人所得・個人支出
- 30日 12月失業率・有効求人倍率  
米FOMC(～31日)  
米12月JOLTS求人件数
- 31日 1月22・23日開催の日銀金融政策決定会合の「主な意見」  
12月商業動態統計  
12月鉱工業生産  
中国1月コンポジットPMI、中国1月製造業PMI、中国1月非製造業PMI  
米1月ADP雇用統計
- 1日 中国1月Caixin 製造業PMI  
英金融政策委員会  
米1月ISM製造業景況指数
- 2日 1月マネタリーベース  
米1月雇用統計

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らたいたかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。